

第5回

ERATO イノベーションセミナー

ERATO Nomura Project : The 5th Innovation Seminar

日時：2018年1月29日(月) p.m. 3:30～p.m. 5:00

Date/Time: January 29 (Mon), 2018 p.m. 3:30 - p.m. 5:00

会場：筑波大学総合研究棟 A110 室

Venue: Advanced Research Build. A 110, University of Tsukuba



講師：難波 成任 氏

東京大学

名誉教授・特任教授・総長特任補佐・EMP コチエアマン

Speaker Prof. Shigetou Namba

Professor Emeritus / Professor /

Executive Advisor, Office of the President / Todai EMP Co-Chairman

The University of Tokyo

研究マネジメントから 産学・社会連携、社会実装へ

「ファイトプラズマ」に関する研究は研究費の調達も研究者の参集もきわめて素朴なかたちで約 20 年前に始まり、その大半は農場という科学の最先端とはかけ離れたところで進められた。しかしその間に、日本の教育研究現場はずいぶん変わった。若者の博士後期課程進学者は減少、競争原理が導入され、研究費の配分も極端に重点化された。特に生命科学系研究分野で顕著なのが、ポストドクの特定有力研究室への集中と、一流誌論文の大量生産である。それに伴い、若手研究者は放浪者化し、一種の過当競争の様相を呈している。また最近では一部の研究不正がマスコミにより過大に取り上げられ、若者の研究離れを加速している。生命科学に大切なのは「命の営み」に宿る神秘を問う純粋な哲学的姿勢ではなかったか？いま一度その原点に立ち返る必要がある。研究トップに必要なのは高度な先端知識や論文投稿テクニクではなく、夢や智慧とマネジメント能力にあふれたリーダーシップのはずである。

大学の産学連携も仕組みはできたが、成果の社会実装は米中に比べると格差が大きい。800 あると言われる日本の大学のうち、一部の恵まれた拠点大学を除き、運営はますます困難を極めている。大学に限らず、高齢化・少子化・インフラの劣化・企業投資意欲の低下などの現象は、日本社会全体の閉塞感を示すものであり、真の社会改革の起爆剤となるリーダー養成は待たないである。先手を打つべく東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム (EMP) を始めて早くも 10 年、修了生も 400 名を超えた。あるべきリーダー像を問い直すシンポジウムも今秋に計画している。

本セミナーは当初、私の研究紹介をと言うことで依頼された。研究とあれば新進気鋭の若手研究者が適任である。よくよく聞くと、「寄付講座」、「産学連携」、「社会連携」についても話して欲しいとのこと。最先端研究の話を知りたい人には興味のない雑ばくな話になりそうなので、自分のスタイルで自由に話して構わないという条件でお引き受けすることにした。

この機会に、ファイトプラズマ研究のマネジメントから産学・社会連携、そして社会実装へと至る過程を、東京大学での私の経験を、一つの例としてご紹介させていただく。

参加費無料

事前申し込み不要

お問い合わせ：betsuyaku.shige.ge@u.tsukuba.ac.jp
(研究推進主任：別役重之)

主催：JST ERATO 野村集団微生物制御プロジェクト
<http://www.jst.go.jp/erato/nomura/>

